

References

- 1) Nilsson, S. 1962. Sv. Bot. Tidskr. 56: 351-361. 2) Alasoadura, S.O. 1968. Trans. Brit. mycol. Soc. 51: 535-540. 3) Miura, K. & M.Y. Kudo (in preparation). 4) Hughes, S.J. 1951. Mycol. Pap. No. 45. 5) Marvanová, L. & P. Marvan 1969. Česká Mykol. 23: 135-140. 6) Nilsson, S. 1964. Symb. Bot. Upsal. 18(2): 1-130. 7) Van Zinderen-Bakker, E.M. 1934. Ann. Myc. 32: 101-104. 8) Tubaki, K. 1963. Trans. Mycol. Soc. Jap. 4: 83-90. 9) Butler, E.E. & A.H. McCain 1968. Mycologia 60: 955-959. 10) Hennebert, G.L. 1963. Canad. Journ. Bot. 41: 1165-1169.

* * * *

次の 2 種の菌類を新種として記載・報告すると共に、*Pyramidospora* 属について若干の検討を加えた。1) *Pyramidospora fluminea* Miura et Kudo (水生菌, 不完全菌類), 2) *Pyramidospora ramificata* Miura (水生菌, 不完全菌類)。

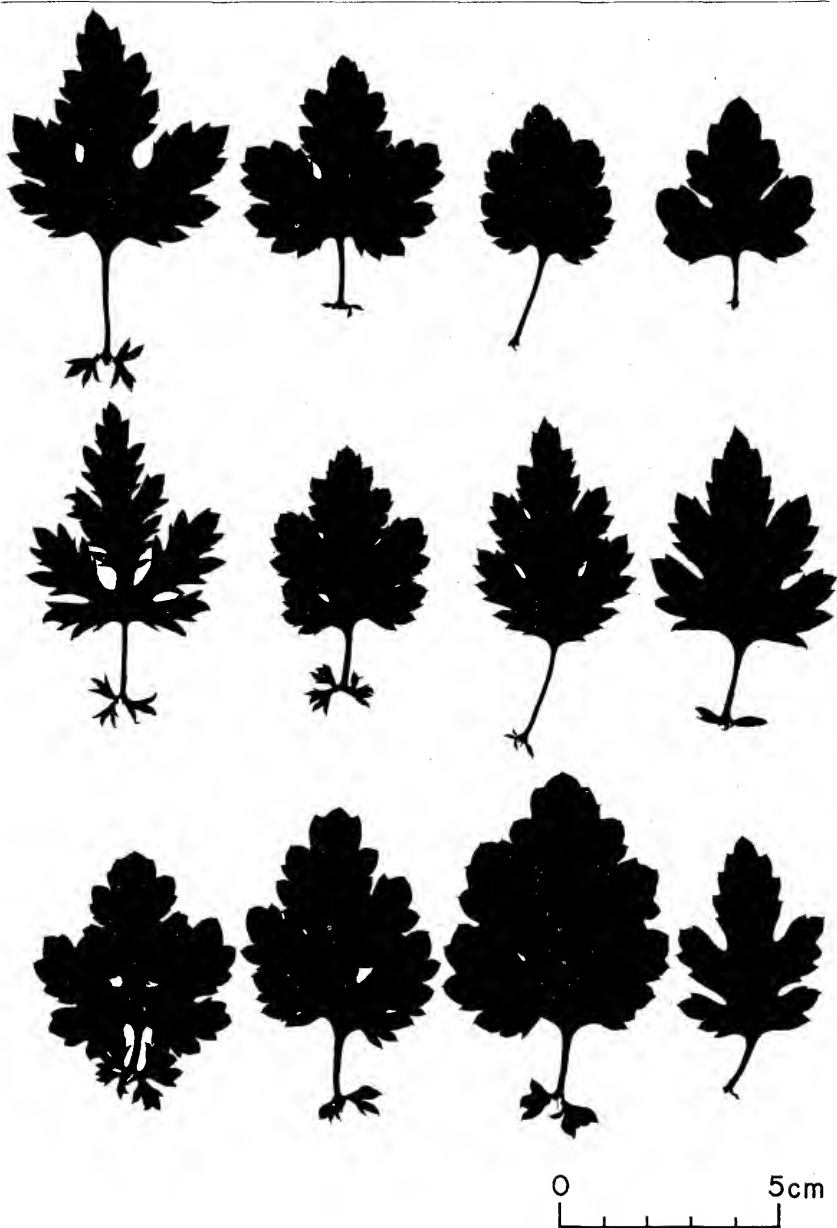
□Chow Cheng: **Formosan Native Rhododendrons** 17.5×9.5 cm, 26 頁, 原色写真 16 図, 1970。園芸業者のカatalogであるが、台湾のツツジ・シャクナゲ類 17 種類の美事な原色写真に英語と日本語の解説がついている。現在、台湾からは 18 種類知られているので、殆んどの種類がのっている珍しい出版物である。1 新種がのせてあるが、これは *R. transalpinum* Ohwi と思う。台中市立德街 194, 周鎮羣園。(山崎 敬)

○植物 シルエット の簡単な作製法 (渡辺邦秋) Kuniaki WATANABE: A simple method of making plant silhouettes.

植物の葉や茎の形態を示す際に、黒い影絵、すなわちシルエットが、しばしば用いられている。この方法によると、複葉、多鋸歯葉の葉縁、托葉、分枝の様子などを適確に示すことができ、形態比較、形態変異を正しく表現することに利用できる。

Manton, I. (1950) は、シダ植物の種間および種内の葉形の相違をこの方法で示したが、その後、シダ植物に限らず、広く種分化の研究に、シルエットが用いられている。福田 (1968) は、ネガティブ写真から印画紙に焼付けしたものに墨入れし、これを減力することによって輪郭を表わす方法を報告している。この方法をシルエット作製に応用すると、縮尺または拡大を自由に調整できて便利であるが、少し煩雑なことはまぬがれない。

筆者は、葉や茎の分枝の様子をシルエットによって、もっと簡単に正確に表現する方法として、複写用ネガポジ法を用いている。図は、この方法によって、ノデギクの



Chrysanthemum japonense Nakai, ノヂギク, $2n=54$, の葉の変異. 広島県安芸郡坂町横浜産.

1 小集団の葉形変異を表わしたものである。

筆者の用いているものは、三菱製紙のネガ（硝酸銀と塩化ナトリウムをゼラチン溶液中に混合したもの）—ポジ（ハイボを合成樹脂溶液の中に混入したもの）複写用紙であるが、他社製品を用いても、同様の結果がえられるはずである。シルエット作製の手順は、

- 1) ミツビシ・ヒシラピッド N（半暗室用ネガ紙）上に、圧葉標本等、写そうとする植物を密着させる。なお、使用するネガ紙が、半暗室用であるため、淡茶の暗室用電球を点灯したままで作業ができ、ネガ紙上で、思いどおりに構図の決定や、材料の並べ変えができる。
- 2) その上を透明ガラス板でおおう。
- 3) 引伸し機または幻燈機を使って、下のデーターに示したように通常の焼付けと同様の露光を行なう。正確なシルエットを得るためには、できるだけ平行光線になるような引伸しレンズを使うことと、十分な露光を与えることが必要である。
- 4) でき上がったネガ紙を、ミツビシ・ヒシラピッド P（ポジ紙）の使用規定どおりに膜面を合わせて重ね、指定現像液を入れた現像器を通して、密着反転現像させる。

以上ででき上がりであるが、所要時間は、約 3～5 分で正確な真黒い植物シルエットが作れる。長期間保存したり、変色させないためには、1.5% 酢酸（写真用停止液）で膜面のヌメリをよく洗い去り、水洗後、乾燥させる。通常使用しているネガポジ法のデーターは、下記のとおりである。

○光源 フジ・エンラージングランプ 100V 150W

○引伸しレンズ E・L・ニコール ($f=5\text{ cm}$)

○ネガ紙 三菱製紙・ミツビシ・ヒシラピッド N（半暗室用ネガ紙）

○ポジ紙 三菱製紙・ミツビシ・ヒシラピッド P

○光源からの距離 45 cm (1/2 A4 版程度の植物) しぼり解放、露光 90～120 秒以上。60 cm (A4 版程度の植物の場合) しぼり解放、露光 240 秒以上。

○現像液 ヒシラピッド・デベロッパ－：水=1:1

○現像器 ヒシラコピイ・プロセッサ－

この方法の考案に際して、広島大学、田中隆莊先生から多くのご教示を得た。ここに厚くお礼申し上げる。

参 考 文 献

- Manton, I. (1950). Problem of cytology and evolution in the Pteridophyta. Cambridge, Univ. Press (Cambridge) 316 pp. 福田泰二 (1968) 植物形態学会報 かたち 1 号. 3 頁. (広島大学理学部植物学教室)